

平成 30 年度第 1 回健康食品管理士会東北支部研修会兼市民公開講座のお知らせ

健康食品管理士会東北支部研修会を下記のとおり開催いたします。なお、研修会は市民公開講座となっておりますので、会員以外のご興味のある方々もお誘いください。

記

日 時 平成 30 年 6 月 3 日(日)13 時 45 分～16 時 15 分

場 所 北里大学保健衛生専門学院 北里ホール
〒949-7241 新潟県南魚沼市黒土新田 500 番
Tel: 025-779-4511 (連絡先: 鈴木英明)

内 容

13 時 30 分 受付

13 時 45 分 東北支部研修会 開会の挨拶 東北支部長 杉澤 淳
市民講座 第 1 部

「パーキンソン病への食事成分とサプリメントの効果」

櫻井 映子 教授(いわき明星大学薬学部薬学科)

【講演内容】 パーキンソン病は、50 歳以上の中高年齢の人に発症しやすく、日本では、人口 10 万人に対して約 100 人から 150 人前後の有病率とされています。手足が震える、筋肉がこわばる、動作が遅くなる、歩きづらくなるなどの症状が出る神経変性疾患で、アルツハイマー病の次に患者数が多いため、この病気の予防や治療効果のある食事内容、サプリメントへの期待も多く寄せられています。現在様々な調査研究が行われている中から、いくつかを紹介したいと思います。

14 時 45 分 休憩

14 時 55 分 市民講座 第 2 部

「遺伝性パーキンソン病の発症機構解明と治療戦略」

小幡 文弥 学院長(北里大学保健衛生専門学院)

【講演内容】 パーキンソン病は、運動障害を示す神経難病の 1 つであり、90%が孤発性、10%が遺伝性である。Leucine rich repeat kinase 2 (LRRK2) は、北里大学神経内科が報告した遺伝性パーキンソン病家系から発見された原因分子である。我々はまず、LRRK2 が神経細胞の酸化ストレス抵抗性や tau リン酸化を制御することを明らかにした。次いで、疾患モデルマウスおよび iPSC 由来神経細胞を用いた研究を行い、遺伝子変異による LRRK2 の機能低下がドーパミン神経変性に繋がる機序を明らかにした。今後、ゲノム編集で修復した iPSC 由来神経細胞による再生医療の展開が期待される。

16 時 00 分 閉会挨拶

交通 行き：J R浦佐駅東口北里学院行きバス停より無料送迎バスを運行します。

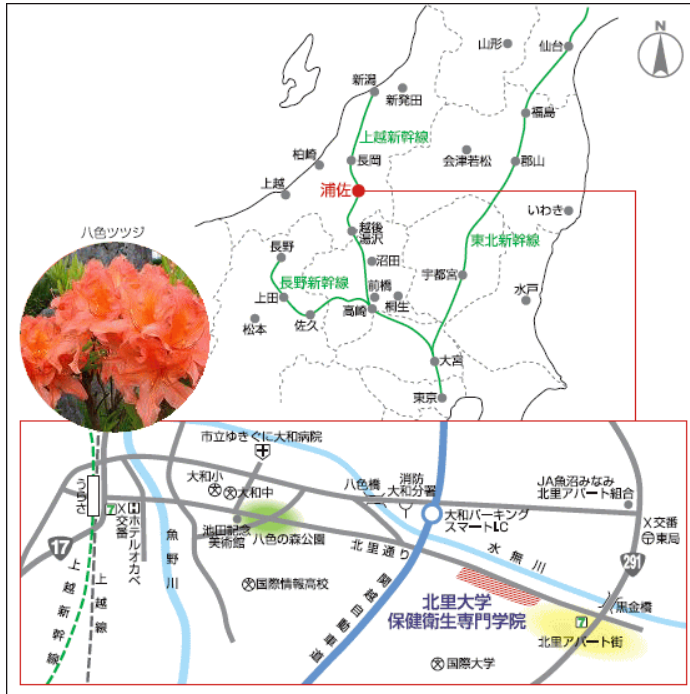
時間 12時～13時45分（随時）

帰り：北里学院発J R浦佐駅行き（16時15分）

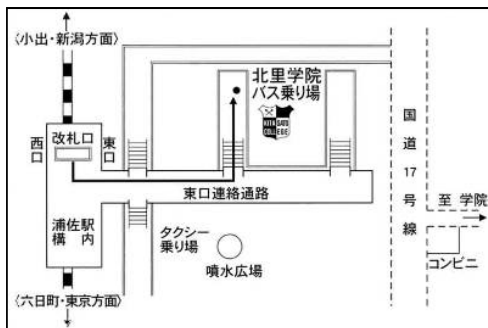
車でお越しの方は学生駐車場をご利用ください(無料)。

アクセスは次の地図またはホームページを参照してください。

<https://www.niigata-kitasato-u.ac.jp/access/>



浦佐駅バス停



後援 北里大学保健衛生専門学院

以上

健康食品管理士会
東北支部事務局